

# ユニセフ早分かり

## ユニセフとは…

unicef

ユニセフ(UNICEF:国際連合児童基金)は、世界の子どもたちの命と健やかな成長を守るために活動する国連機関です。第二次世界大戦で被災した子どもたちへの緊急支援を目的に、1946年の第1回国連総会で創設されました。現在、ユニセフは、「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」で定められている、子どもの「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」を実現するために、その国の政府やコミュニティ、NGOや住民などと協力してさまざまな支援活動を実施しています。

## ユニセフの主な活動

### ユニセフ活動分野別の支出割合(2019年)

(割合は四捨五入しているため、100%にならない場合があります。)

#### 公平な機会

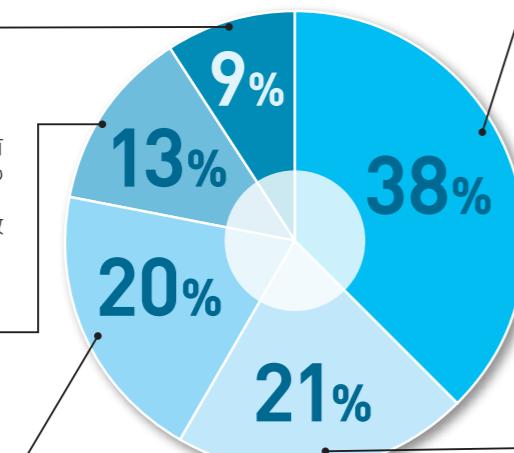
すべての子どもが、人生において公平な機会を得られるように紛争、危機、気候関連の災害、障がいの有無やジェンダーによる差別により、子どもたちの可能性が奪われることがないよう、誰もが受け入れられる社会をめざした政策提言や子どもたちへの支援など。

#### 子どもの保護

すべての子どもが、暴力や搾取から守られるように暴力の被害にあった子どもの保護、子ども兵士の解放や社会復帰、人身売買や児童労働を防ぐ取り組みなど。

#### 環境 (水と衛生)

すべての子どもが、安全で清潔な環境で暮らせるように子どもの生活環境を守るために、安全な水の確保、トイレ、手洗いなどの衛生習慣を広めること、災害リスクの軽減、平和構築、都市化や汚染、気候変動への対応など。



#### ～上記の分野に横断的にかかわる活動～

#### 緊急支援・人道支援

自然災害や紛争といった緊急事態や人道危機が発生したとき、いち早く子どもたちを守るために、テントや毛布、医薬品など、必要な支援物資を迅速に届けられる体制を整えています。また「子どもにやさしい空間」や「学習センター」などを設置し、子どもたちが日常を取りもどし、安全に過ごせるように支援しています。

#### ジェンダーの平等

ユニセフは、平等と無差別という基本的人権の原則に基づいて、ジェンダーの平等を推進しています。各国における支援プログラムを通して、女性と女の子が、コミュニティの政治的、社会的、経済的な発展に参加できるよう支援しています。特に教育分野においては、男女に関わらず、すべての子どもが教育の機会を得られるように取り組んでいます。

### 地域別の事業支出割合(2019年)

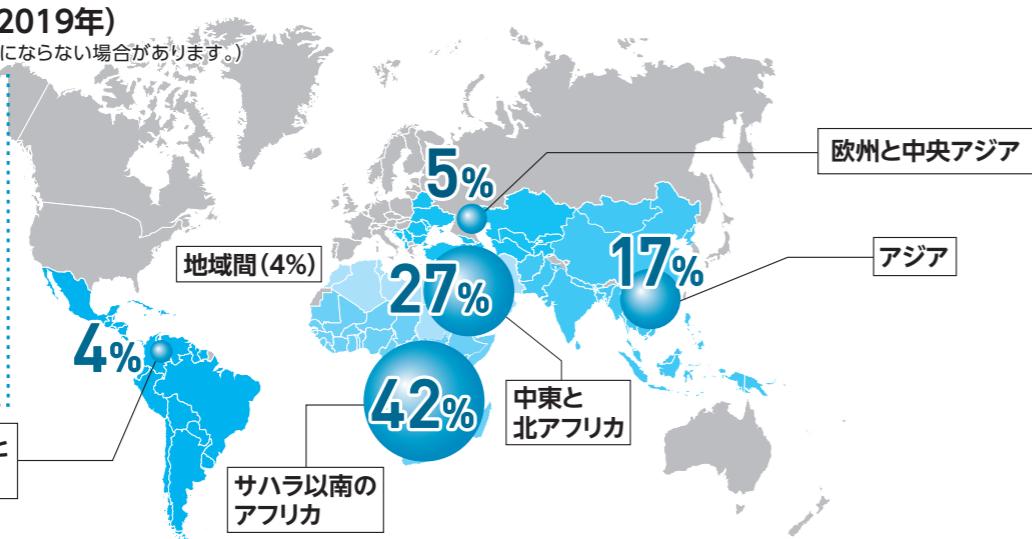
(割合は四捨五入しているため、100%にならない場合があります。)

#### 最も支援を必要としている子どもたちに支援が届けられるように、

- 1 5歳未満の子どもの死亡率
- 2 国民1人あたりの所得
- 3 子ども(18歳未満)の人口

この3つの指標をもとに優先順位を判断して各国・地域に予算を配分しています。

ラテンアメリカとカリブ海諸国



## ユニセフの歴史

1945年 第二次世界大戦が終り、国連が設立される(写真①)

1946年 第1回国連総会でUNICEF(国際連合児童緊急基金)を創設 戦争で被害を受けた子どもへの緊急支援をはじめる

1949年 日本の子どもへのユニセフの緊急支援がはじまる—学校給食での粉ミルクなど

1953年 名称を「国際連合児童基金」と改め、活動を開発途上国の子どもへの長期的な支援へ広げる

1955年 財団法人日本ユニセフ協会設立

1959年 国連総会で「児童の権利宣言」採択

1964年 日本へのユニセフの支援が終わる(15年間の援助総額 当時の金額で約65億円)

1965年 ユニセフ、ノーベル平和賞を受賞(写真②)

1979年 国連総会が国際児童年と定め、ユニセフが中心となってキャンペーンを展開

1983年 ユニセフ「子ども健康革命」提唱 子どもの生存と健康のための支援事業に重点をおく

1989年 国連総会で「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」を採択(写真③)

1990年 「子どものための世界サミット」開催 世界159カ国から代表が参加

子どもへの予防接種の普及率が80%に到達

1996年 ユニセフ創設50周年「ユニセフの使命」を発表する

1999年 ユニセフ、子どものライフサイクル—乳幼児期・学齢期・青年期に合わせた総合的支援活動をはじめる

2000年 国連ミレニアム・サミットにおいて、MDGsの基となる「国連ミレニアム宣言」が出される

2002年 「国連子ども特別総会」開催。21世紀の新たな子どものための目標を採択

2011年 内閣府の認定を受け、日本ユニセフ協会は財団法人から公益財団法人になる

2015年 国連持続可能な開発サミットにおいて、SDGsを含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択される(写真④)

2016年 ユニセフ創設70周年

2019年 「子どもの権利条約」採択30周年



## 日本の子どもたちもユニセフの支援で元気になりました

今は豊かになった日本ですが、第二次世界大戦後、人びとは家を焼かれ、着る物も食べ物もなく、不衛生な環境の中での生活を強いられていました。そのような厳しい状況におかれた日本の子どもたちをユニセフは支援しました。1949年(昭和24年)から15年間にわたって、当時の金額で約65億円相当の大きな支援で、学校給食用の粉ミルク、毛布、衣類の材料となる原綿、医薬品などが提供されました。

2011年の東日本大震災発生時には、ユニセフの協力のもと、日本ユニセフ協会が被災地で支援活動を行いました。



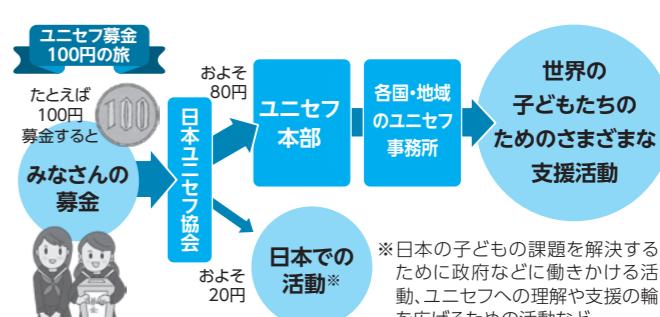
## 大きなユニセフ・ファミリー

ユニセフが支援活動をしている国や地域には、現地事務所や地域事務所があり、その国の政府と一緒に活動しています。一方、ユニセフの支援を卒業した日本などの先進工業国には、民間でユニセフを代表するユニセフ協会があり、ユニセフの活動を支える募金活動や広報活動などを担っています。こうして、現在、ユニセフは約190の国と地域において活動をしているのです。



## 日本ユニセフ協会の活動

日本ユニセフ協会は、個人のみなさん、団体や企業、自治体、報道機関や学校のみなさんから、ユニセフへの募金をおあずかりしてユニセフ本部へ届けています。また、ユニセフの活動や、世界の子どもたちの状況などについて日本国内でお伝えしたり、子どもの課題を解決するために政府などに働きかけたりしています。



※日本の子どもの課題を解決するために政府などに働きかける活動や、ユニセフへの理解や支援の輪を広げるための活動など。